

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401814
法人名	有限会社 みらい
事業所名	グループホーム みのぶの郷
所在地	〒859-2122 長崎県南島原市有家町大苑1967番地 (電話) 0957-82-1113

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年8月8日

【情報提供票より】(H20年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16,5 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算	8,01人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	7,500円・実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	100 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(H20年6月2日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菜の花クリニック・泉川病院・池田医院・島原保養院
---------	--------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園や森林の自然豊かな場所にある木造平屋造りの建物にある当ホームは、敷地面積が広く、庭は広範囲にわたって芝生が敷かれており、周囲には収穫の際、入居者の楽しみとなるような果樹が植えられている。通所介護事業所が同敷地内に併設されており、緊急時や避難訓練、催しがあるときなどお互い協力して実施されている。管理者はグループホームケア研究会のリーダー的存在で、「利用者本位」を基本に職員教育を行ない、資格取得にも積極的で、日々、職員の質の向上に取り組まれている。また、医療機関との協力・連携体制ができており、終末期のケアも実施されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価後は職員全員でミーティングを行い、前回の評価に対して改善計画シートを作成し、優先順位を付け、積極的に取り組まれている。職員だけでなく入居者や家族、外来客の目の届く玄関に以前の評価の結果を置くことで、結果を真摯に受け止め、今後改善していこうとする姿勢がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価・外部評価の目的・意義を十分に理解し、自己評価を作成されているが、勤務の関係から全く存知することが出来なかった職員もあり、職員の評価に対する内容の把握が明確でない為、職員一人一人が自己評価・外部評価の目的・意義を十分に理解するよう今後の取り組みに期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は島原地域広域市町村圏組合の介護保険課、民生委員、家族代表、地区代表、ホーム職員が出席し、2ヶ月に1回開催されている。日々の活動内容、入居者の状態報告、またその他の取り組み状況について報告が行われ、議事録として残されている(個人情報の漏洩に配慮し個人名は出していない)。会議では毎月行われる避難訓練について報告するとともに、協力も呼びかけたりと地域・行政機関との連携に繋げている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月一度は面会にきていただけるよう家族の方には伝え、その際、入居者の状態を家族に話すようにしている。玄関に「目安箱」を設置し、来所した家族へ意見や苦情等がないか働きかけを行い、意見や苦情等があった際は解決に向けて働きかけ、今後に役立てるよう受け入れる体制を整えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会がなく、行事も少ないが、外部からの職場体験者や見学者の受け入れを行い、また地元の人がホームに訪れることもあり、気軽に立ち寄ってもらう環境づくりを行っている。散歩や外出の際は地域の人と挨拶を交わすなど、日常生活において地域との連携をとれるよう取り組まれている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	戦前・戦後の荒廃した日本を復興させてこられた入居者の方々に対する尊敬と尊厳の念を忘れず、いつまでも地域の中で自分らしく暮らして欲しいと「利用者本位」を掲げ、日々の暮らしのお手伝いをさせて頂くという考えでサービスを提供している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアにおいて、「利用者本位」を念頭に入れて行動するよう職員に対して理念の浸透を図っている。常に入居者の方を第一として、その理念に反することがあればその都度注意を促している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会がなく、行事も少ないが、外部から職場体験者や見学者の受け入れを行っており、また不定期ではあるが地元の方がホームに訪れることもあり、気軽に立ち寄ってもらえる環境を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員だけでなく家族等、外部からの来客に対しても閲覧できるよう、玄関に評価結果が置いてあった。また職員でミーティングを実施し、外部評価での改善点を確認しているが、自己評価を作成するにあたり、作成時の出勤関係で個々の職員の評価に対する内容の把握が明確でない。		全体で自己評価を行うことでの気付きと、これからの課題や方向性の統一・意識付けに繋がる事を考慮されて、自己評価及び外部評価に対する意義を周知し、全員で評価に取り組まれることに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は島原地域広域市町村圏組合の介護保険課、民生委員、家族代表、地区代表、ホーム職員を交えて2ヶ月に1回開催されている。外部評価の結果や入居者の状況、またホーム内での行事等の取り組みなどを報告している。		

グループホーム みのぶの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の書類届出等で市町村に出かけて行くことがあり、担当者と話をするよう心がけている。		以前開催されていた市町村担当者と介護保険事業所との会議や研修がなくなり、市町村担当者との連携が少なくなった。現在、以前のような協議会を発足し、活動計画を立て、市町村と積極的な関係を作れるよう計画されている。今後の活動に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度、面会に来てもらうよう家族に伝え、その際、入居者の状況を話している。遠方にいる家族には毎月送付する利用料金の請求の際、入居者の状況を記した書類を同封して現状を知らせている。また、病院受診や健康状態に異変があった際は、必ず家族に電話連絡を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「目安箱」を設置し、家族等の意見や苦情等を受け入れる体制を取っている。また、面会時に家族へ働きかけを行ない、意見等を聞く体制を整えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同敷地内にある他のサービス事業所への職員異動は最小限に抑えるよう努力し、新人の職員と入居者のふれあいの場を多く持ち、早く馴染むことができるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員には1対1で対応して職員教育を行なっている。研修への参加も積極的で、スキルアップのための講座や研修会に参加できるよう配慮されている。研修に参加できなかった職員には事後報告で資料を共有するよう取組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加したり、グループホーム対抗の風船バレー大会、職員のバレー大会等、他事業所との交流の場に参加している。また、管理者がケア研究会の中でリーダー的存在であり、主催者側となって同敷地内で研修が行なわれているため、同業者との意見交換の場も多く、サービスの質の向上に繋がられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には前もってホーム見学をしてもらい、職員や入居者の生活に触れてもらっている。また、自宅訪問や家族を交えた面談を行ない、本人・家族が納得した状態で入居していただくよう心がけている。利用当初は特に職員の声かけを多くもち、不安を取り除くなど配慮して支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩であるという意識を常に持ちながら、入居者の経験から学び、個々の生活歴、趣味に配慮して、入居者が出来ることを見守りながら、不足の部分を補う形で支えあうことができる関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に立てられるケアプランは、入居者の希望や意見を取り入れプランを作成している。日頃の支援の際もそのプランに沿いつつ、日常の中での希望や意向の把握に努め支援を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者への個々の聞き取りを行ない、職員複数によってミーティングを行ない計画を作成している。その後、家族に説明を行ない、同意(日付・記名・捺印)を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的、または入居者の状態変化に応じて担当者会議を開き、介護計画の見直しが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出希望時や医師の往診・通院の送迎、訪問看護の利用等、入居者・家族の要望に叶うよう対応している。また、終末期の介護に対して取り組まれており、病院との医療体制の連携も取れているため、利用者・家族の希望に沿った柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週一回以上の往診が行われている。また、入居者・家族の希望によって往診や通院による受診が行われ、急な体調変化にも対応できるよう医療体制を整えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての対応を、開設の当初から取り組まれている。医療機関との連携も整えており、また入居者や家族の意見を取り入れながら終末期に向けた話し合いを行っている。職員に対しては、入居者の病歴や状態を把握してもらい、報告や書類作り等、情報の共有を行い、手厚い連携を取っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者への言葉かけや態度には注意し、入居者の尊厳を傷つけないよう配慮している。個人情報においては漏洩がないよう、第三者の目に触れない場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念に「利用者本位の処遇」「できるだけわがまを聞けるホームでありたい」と掲げてあるように、ホーム内では入居者が中心であることを常に念頭に入れ、入居者個々の訴えに対して、可能な限り応じよう支援が行なわれている。		

グループホーム みのぶの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話や聞き取りの中で好みを聞き、利用者の方に合わせたメニュー作りが行われている。配膳の手伝いやお盆拭き等、利用者の身体状況や体調に合わせて手伝ってもらっている。しかし、重度の利用者が多く介助が必要な為、職員が同席して食事を取ることが困難な状況である。		入居者と職員の食事内容は一緒であるが、今後の課題として介助を行いつつ、また手すきの職員だけでも一緒に食卓を囲む体制作りを検討されるよう期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により入浴回数を増やすこともでき、入居者のペースに合わせて入浴の支援が行われている。重度化の入居者にも対応できるよう特浴も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に応じた掃除や食事の準備、新聞紙折り、小物を作ったり、ホーム内外のレクリエーション等、毎日の生活の中で自分の楽しみや役割を取り入れることで、張り合いのある日々を送ることができている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者と一緒にドライブに出かけ、地域の祭りに参加、また墓参りの同行等援助が行われている。ホームの敷地内を散歩される方や庭のベンチに座って池を眺める方もおり、職員は注意して見守りを行い、利用者が安心して戸外に行けるよう支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけない取り組みがされている。居室の鍵はかけておらず、ドアを開けた際に光るセンサーが取り付けられており、危険予防を図った上でケアが行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いにより災害訓練を行い、年に10回自主的に避難訓練を行っている(特に夜間想定訓練を重視)。地区の消防団には居室の間取りを見てもらい、災害時に素早く対応ができるよう協力をお願いしている。		

グループホーム みのぶの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望や状況に留意し、栄養バランスがきちんと取れるよう支援が行われている。入居者全ての水分量や食事がケース記録に記入され、日々の健康状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い中庭には芝生が敷かれ、その周りには果樹が植えてあり、自然を身体で感じることができる。利用者が作成した小物や描いた絵等も飾っており、花も綺麗に活けてある。玄関には入居者が外出する際の日射病予防のための麦藁帽子が置かれてあり、またそれも季節感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側が居室内に必要な備品の準備を行っている。また荷物は最小限に抑えたいという本人や家族の意向もあり、現在本人の持ち込みはあまりないような状態である。		現時点でも、本人・家族には働きかけを行っているが、使い慣れた本人の日常生活の品物を利用することで、その人らしく居心地よく過ごせる居室づくりに協力を頂けるよう、継続した働きかけに期待したい。